

リハビリテーション医学 (Physical Medicine and Rehabilitation)

【責任者/担当者】

〔リハビリテーション医学〕 道免 和久 主任教授

【担当者】

〔リハビリテーション医学〕 児玉 典彦 講師、内山 侑紀 講師、小山 哲男 特別招聘教授、
宮越 浩一 非常勤講師、勝谷 将史 非常勤講師

〔地域総合医療学〕 金田 好弘 助教、岩佐 沙弥 助教

【目的】

- ・人間の身体機能、活動能力、社会性の視点から、人間の尊厳・人生の質を見つめ、病者にあつて、これらを維持・向上させることの意義を理解する。
- ・病的機能の回復並びに正常機能の維持に向けて、早期対応の必要性と対応の領域を理解する。
- ・精神機能、高次脳機能、感覚運動機能、骨関節機能、心肺機能の個別的な理解と、機能統合体としての人の働きを理解する。
- ・人の機能と環境との相関を理解する。

【科目キーワード】

「リハビリテーション医学(Rehabilitation Medicine)」 「障害(impairment)」 「能力低下(disability)」 「社会的不利(handicap)」 「ROM(range of motion)」 「MMT(manual muscle test)」 「ADL(activity of daily living)」 「脳血管障害(CVD; cerebrovascular diseases)」 「片麻痺(hemiplegia)」 「嚥下障害(dysphasia)」 「歩行障害(disturbance of gait)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 心身の機能診断、能力評価を説明することができる。
- ☐ リハビリテーションの概念と治療体系を説明することができる。
- ☐ 日常生活動作に関する考察ができる。
- ☐ 運動障害・歩行障害の病態・治療手段を説明することができる。
- ☐ 内部障害(呼吸器・悪性腫瘍等)における機能・能力障害の機構と対応手段説明することができる。
- ☐ 加齢による障害の病態・機能・能力を評価し、対応を説明することができる。
- ☐ 脳損傷における運動並びに高次脳機能障害の評価と対応を説明することができる。
- ☐ 失語・構音障害・摂食・嚥下機能障害の評価と対応を説明することができる。
- ☐ 骨関節機能障害を評価し、対応を説明することができる。

- ☐ 成長期神経疾患に伴う身体機能障害、脊髄障害への対応を説明することができる。
- ☐ 系統的神経・筋の障害、排尿障害対応を説明することができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

概要

リハビリテーション医学に関する講義を行う。

履修方法

講義に出席のこと。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

不要

【成績の評価方法・基準】

- ・定期試験
- ・受講態度
- ・学則・規程の出席基準遵守

【学生への助言】

履物や髪型も含めた服装、受講態度も評価の対象である。

【フィードバック方針】

質問があれば、医局まで問い合わせ下さい。

【オフィスアワー】

なし

【受講のルール、注意事項、その他】

遅刻しないこと。授業に集中すること。

【教科書】

「最新リハビリテーション医学(第3版)」安保雅博、他 編(医歯薬出版)2016 年

「現代リハビリテーション医学(改訂第4版)」椿原彰夫、他 編(金原出版)2017 年

【参考書】

特になし

【連絡先】

2 号館 1 階 リハビリテーション科医局(内線:6881)